

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 グループホーム うすき
(ユニット名) 2階

所在地
(県・市町村名) 鹿児島市宇宿2丁目13番17号

記入者名
(管理者) 上原 久史

記入日 平成 20年 2月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎朝の朝礼にて出勤スタッフと共に理念の唱和を行ない常に皆で確認しあっている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の唱和によりいつも理解してお世話しているつもりだが、どうしても深く支援することが今の所できていない。		笑顔の絶えない明るい居場所を提供して行きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的な運営推進委員会などにより、家族や地域の方々と調整が出来ている。しかし地域交流をもっと増やしたい。		家族の参加が著しく少ない為、今後多くの家族に参加できるように声かけや案内を早めに出したい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域的に工業地帯に面している為になかなか住民の方々とお会い出来ない事が現状。地域交流室は設けてあるが今はほとんど利用されていない。		地域交流室があるのにうまく活用できていない。もっと今後は外部へも広報して行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	未だ地域の行事にほとんど参加できていない状況である。また季節の行事といっても地域的にどの様なことが行なわれているかわからない。		今後地域の行事等を事前に調べて、外へ出て行きたい。

鹿児島県 グループホームうすき

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員会議等はあるが、なかなか地域の中で何をしたいのかわからない。具体的にどのようにしていったらいいのだろうかと思う。		グループホームの存在をもっと地域の方々に知っていただく為に、地域に出たり地域の方々を呼び入れたい。
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘された事項について、職員管理者が日々気を付けて取り組んでいる。評価に伴いスタッフ間でも内容について話し合うことをしており、その指摘された内容を利用者や家族へフィードバック出来る様にしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行なっていると思う。特にご家族の参加は今の所少ないが、参加されなかったときには面会時声をかけている様な意見を聞いている。		アンケート箱を設置しているが、なかなか意見を書いてくれないのが現状。もっと意見を今後は聞いていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者がよく市へ相談をしている姿を見ている。介護保険の更新申請時やその他で行っている事もあり、いろんな情報を管理者から聞く機会がある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	各制度についての理解はまだまだだと思う(言葉自体は最近よく耳にする)もっと勉強を行なう機会を設けて欲しい。		もっと介護保護保険の内容等について理解出来る様に勉強して家族に聞かれても説明が出来る様にしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者自身の身体機能の維持向上を図りながら、身体の異常を早期に発見できるように、日頃から注意を行なっている。特に入浴時に身体状況の観察を行なっている。入浴時に全身の状態を観察し、必要に応じて主治医への相談を行なっている。または今後も継続して行いたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時に必ず記録をとっている。その際に今後のことについて相談等を行なっている。退去後の受け入れ先等、担当者への情報提供等家族の許可を貰って行なっている。今後も継続して行いたい。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なるべく利用者が意見しやすい環境を提供し、自発的に意見を言えることが出来る様に日頃から心がけて対応している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要に応じて連絡を行なっている。分からない事が在ったりした時は、家族等へ伺いをたてそれをケアに役立てている。家族と利用者との間に入り度々話をすることが出来ている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会等で色々な意見を出せるようにし、そのことについても意見交換が出来、また課題提供も出来ている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議によりスタッフからの意見を出して、今後の運営に役立てられるように実施できている。		職員会議が毎月25日に行なわれているが、その内容的なものからすると1回の開催を2回の開催にすることでいろんな面がクリアされ、提案事項を考えていける。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急な対応時、スタッフへ連絡し人数確保など現在のところ出来ている。また夜間は特に人員確保が難しかったりするので管理者等の指示を受けている。		どうしても限られた人数で行なわなければならないこともあり、毎回人数に余裕がない。1日あたりの人員をあと一人増やしてもらった方が良いと思う。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者交代等の際は必ず交代するスタッフと共に、顔合わせを行ない利用者にも説明を行なっている。		利用者の動揺が一番である為に、慎重に対応して貰っている。交代の際は利用者が納得してくれるまで、繰り返し説明を行なって貰う。

鹿児島県 グループホームうすき

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や情報等をメールなどを利用し、情報交換を行なっている。研修については内外研修の案内などが配信されている。	必要な法人内研修や外部研修へ参加して行き、スキルアップが図れるようにしたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内スタッフとの意見交換する機会が管理者(月1回の管理者会議)のみでしかないのが現状である。もっと現場スタッフが意見交換できる場の提供が必要。	法人内で同じグループホーム間のスタッフと意見交換会をしたい。各施設の困りごとや成功例などを参考にさせたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休み希望をできるだけ勘案してくれている。ストレスを持ち込まないように、スタッフみんなが努力している。	福利厚生面をもっと有効に使えるような対応をして行きたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自分のやりたい事を見つけ出し、一人ひとりの職員が資質の向上や人間としての扱いが出来る様になってきた。以前は少し職員本位だった。	もっと気軽に意見を言える環境を作ってスタッフそれぞれが意欲的に利用者のケアに取り組めるようにしたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった時点で面会させて頂き、本人やその方を取り巻く方の意見を聞き、入所までの支援、または入所後の支援を行なっている。	入所された方の生活歴等をもっと深く知りえる為になじみの関係作りを行なっていく。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接で経緯の聞き取りを行ない、入所された後どのような生活を望んでいるのか、本人の意向を聞いたり出来ている。また家族の協力体制についても伺っている。入所されてからもいろんな場面で話を聞いたり、得た情報については必ず記録に残す対応を行なっている。とにかく本人の口から出たことに関しては記録に残している。	

鹿児島県 グループホームうすき

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申し送りノートや日勤夜勤の記録等の確認に努め、みなが共通認識の中でその利用者の対応が出来る様にしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所時にミーティングを行ない(本人・家族含めて)、スタッフの顔を覚えて貰ったり、意向を確認したりという作業から始めている。また本人の居住空間になじみの物を配置して安心して生活を送れる様に配慮している。安心して暮らせる様に本人の意向を尊重した生活空間を作っている。もしくは危険防止を行なっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から沢山の喜怒哀楽を貰っていると感じる。やはり自分たちよりも長く生きている為に、色んなことを知っていて人生における先生だと思っている。</p>		<p>利用者中心の日課に心がけられるようにしたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人についての情報を家族と共有することで、本人を取り巻く環境にて理解対応が出来ている。必要に応じて本人・家族を交えて話を行なっている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>イベント等の参加を呼びかけ、普段目にする事の出来ない利用者と家族の関係を提供できる様に配慮している。一緒に住めない寂しさなどを、場の提供によって少しでも安心できるような対応を行なっている。</p>		<p>家族などの関係作りを継続して出来る様に、今後もイベント等を用いて提案して行きたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出等の機会に自宅付近を通ってみたり、時々電話をかけて直接話をしてみたりなどの方法を取っている。</p>		<p>本人を取り巻く関係者との連絡を密に取りながら、足が向くように言葉掛けなどの配慮を行なう。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者間にスタッフが入って仲介役を演じ、間を取りながら関係性を築けるような対応を行なっている。皆が支えあって生活できるような支援に心がけている。</p>		<p>一人ひとりの個性を尊重しながら本人に合った生活方法をスタッフ・家族と協議しながらなるべく集団でも楽しめるように対応していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されている方や、地域の方々の情報を貰ったり面会に行ったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃希望を伺いながらそれに沿ったことが出来る様に管理者等交えて話を行なっている。		自己決定がもっと出来る様にもっと信頼関係を築きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	色々な情報提供などを見てはいるが、まだまだ本人のことを深く知りえていないことが現状である。		会話の中で少しでも気になった言葉を、記録し本人のやりたいことや好きな事が出来る様にして行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	コミュニケーションを取る中で普段の身体状況や表情を観察しながら把握出来る様にしている。記録と自分らの目で確認したことをスタッフ間で協議出来る様にしている。気づいた事は必ず記録に残している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成時に本人や家族の意向スタッフからの情報を元にプラン作成が成されていると思う。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新しく入居されてくる入居者については、入居後約1ヶ月の間で本人家族と再検討を行なっている。既入居者については、スタッフなどから意見を聞いたり本人家族の意向を聞いたりして対応している。		もっと本人や家族が意見を言いやすい環境の下で、介護計画を立て家族も巻き込んだ生活体制を作って行きたい。

鹿児島県 グループホームうすき

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を担当者(記録係り)が行なっている。気づいた事・起こった事等を細かく記入するようにしている。気づきを元にプラン作成に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊の希望の際はスムーズに行なえるような対応が出来ている。また家族等の面会時間も柔軟に対応できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	季節の行事の際は地域の方々に例書してもらい交流等行なっている。また緊急事態に係わらず警察や消防との連携も取っていかうと努力している。		緊急時(心肺蘇生法等AEDの使用法など)の講習等今後行なって行きたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進委員会のメンバーとして地域包括支援センターの職員や民生委員の方々と定期的に話し合いを設けている。		もっと地域の中に根ざす為に話し合いの場を持つようにしたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員との連携は出来ていると思う。権利擁護など利用者の有する権利について話し合いは時々行なわれている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者各々主治医が異なる為にできる範囲でスタッフが支援し、出来ないところに関しては家族などに協力を貰っている。またグループ内の病院であれば緊急時にホットラインを使用して対応が取れている。		

鹿児島県 グループホームうすき

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	病院受診の際に近況報告を行ない、内服等の相談を行ったり助言を貰ったりした対応を行なっている。		認知症という症状をもっと理解しながら、医師との連携を取って行きたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護の必要性のある方に関しては、クリニック等より来てくれている。必要な治療などをお願いしている。医療処置の必要な方については、ホーム外の医療との連携を取りながら、利用者が安心して生活できるような体制作りを今後も継続したい。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された時は頻回に面会等行き、状況観察や入院先スタッフに対し情報交換を行なっている。また、家族との連絡を取り対応を行なっている(入院されている方の状態を経過記録にも残してある)		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者に関しては本人や家族医師等交えて今後のことについて相談を行なっている。必要に応じて関係のあるMSWにも立ち会って貰っている。		利用者が終末期を迎えるに当たってスタッフがどれくらいのケアができるか検討しながら対応して行きたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療行為等が必要になってきた場合は往診・受診・入院対応が出来る様にかかりつけ医と調整等行なっている。		医療行為については出来ないの、重度化した入居者についてどこまで対応できるかを今後スタッフみんなで話し合っ行って行きたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設や在宅復帰する際は、本人家族を取り巻く方々に対して情報提供を行ない住み替えたときも不自由が発生しないように対応を行なっている。新しい居場所で戸惑いが生じないように、その場所へ対して情報提供を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	相手の気持ちを十分に踏まえ自尊心を傷つけないように対応をしている。また記録物に関しては十分に気をつけている。	言葉掛けをもう少し丁寧に出来る様に心掛けたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアする側の考え方を押し付けるようなことを避け、本人への説明を行ない納得して貰えるような対応を心がけている。	もっと本人が思いを訴えられるような関係作りを行なって行きたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出を希望されたりする方に対しては、できる限り時間を作ったりしてスタッフが付き添い外出やドライブ等を行なっている。然し、スタッフの人数がギリギリの時はかなり難しい。	スタッフの人数を確保し、いつでも利用者の要望に応えられるような対応をしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に沿って理・美容室へ行ける様に支援している。また出向くのではなく、業者に訪問して貰い対応を図ったりしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳ができる利用者に関しては、できる限り声かけを行いながら一緒に行なっている。然し利用者が間接的に食事作りに参加する方がほとんどない。	食事全てを行なって貰うのではなく、野菜の皮むきとか切りそろえる様なことをして行きたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒やタバコを嗜む習慣のある方に関しては、場の提供を行なったりしている。また希望があったときに実施している。	

鹿児島県 グループホームうすき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターンを知る上で必要に応じて記録を行ない、一人ひとりにあった対応を行なうことが出来ている。</p>		<p>日中だけでもオムツをはずせるような対応が出来たら、もっと本人のやりたい事ができるような気がする。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>スタッフの人数等により、一応入浴の時間は設定されているが、希望があればその都度対応出来る様に設定してある。現在月・水・金の週3回が設定してある。</p>		<p>もっと一人ひとりのペースに合った入浴方法を取ることが出来る様に今後考えていきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活リズムに合わせた睡眠等を提供できる様に心がけている。また無理に部屋から出そうとせず、声かけを行いながら共有の場で過ごせるような対応を心掛けている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりにあった対応に心がけ、コミュニケーションの中でひとつずつ思いを汲み取れるようにしている。多く語れないので少しずつ聞き取りを行いながら、本人の気分転換になれるよう努力している。</p>		<p>利用者がグループホームで生活する中生きがいを見つけ出せるような支援をしていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望のある方に関しては、本人管理をお願いしている。所持することで落ち着かれる方もいるので、そこは臨機応変で対応している。</p>		<p>買いたいもの・行きたい場所など日頃の訴えから外へ連れ出すなどもっと対応して行きたい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>「散歩をしたい」「外へ行きたい」等の要望がある際は、スタッフが付き添い散歩を行なっている。また、希望を言わない方に関しても時々屋外へ連れ出し、季節を味わって頂いている。</p>		<p>暖かくなってきたら、屋外へ出て日光浴等ができるような対応を行ないたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族の協力を貰いながら、外出・外泊などの対応を行なっている。多数人で外出する機会が未だ無いので、今後実施して行きたい。</p>		<p>周囲の協力を貰いながら、本人の望む(訴える場所)へ行ける様に対応したい。</p>

鹿児島県 グループホームうすき

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が望むときに支援が出来ている。また必要に応じて連絡を取る際に、家族の声を聞いて貰ったりしている。年賀状や季節に応じてはがきを出している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問(面会)された方々とコミュニケーションを取りながら情報交換を行なっている。また会話の中に参加させて貰ったりと、和やかな雰囲気の中で会話等行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在ない。一人ひとりの人権を尊重している。見守り強化という方向性でケアを行なっている。		スタッフで協議しながら対応出来る様にして行きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ベッド柵や玄関への施錠は出さるだけしない方向で対応を行なっているが、どうしても離園防止など発生する恐れがあり、全てをオープンにすることが出来ていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフが見守る様に心掛けている。必要に応じて協同で作業を行なったりして、目の届く範囲で観察を行なっている。入居者の所在が分かるようにホールや部屋の巡回を常に行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	馴染みのあるものと無いものに区別し必要最低限で設置等行なっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に利用者の安全等について話し合う機会を設け、家族にも理解を貰いながら日々注意等行なっている。又火災など発生時にマニュアル化出来るような体制も出来ている。利用者の状況を再確認し、転倒の危険性を低くする為の努力は行なっている。薬はスタッフで預かり対応している。		

鹿児島県 グループホームうすき

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の身体状況を把握し、どのような症状があるかを共通認識し、緊急時に備えての対応をどうするか日頃から話し合われている。		急変に備え誰でも対応が出来る様に、訓練を行なって行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震(天災)などの際にどうすべきかを地域含めて話し合いが今の所うまく出来ていない。地域的に協力が得られるか不安である。		町内会への参加が現在滞っている。地域の方々との連携をもっと生かした対応が出来る様にして行きたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒など入居されたときに発生しうるリスクに関して家族によく説明し、その可能性に対して理解をして貰っている。ベッドからの転落・単独離園時の転倒の危険性などについては家族へ対しよく話を行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行ない、日々の記録と照らし合わせるようにし異常と思われる場合はかかりつけ医に相談している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれが飲んでいる薬等を理解しながら、状態の観察を行ない服薬品目の追加が発生したときに、スタッフみな理解できる様口頭でもしくは連絡ノートで確認するように心掛けている。入居者の内服一覧表を作り、利用者がどんな薬を飲んでいるか分かりやすくしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のために運動や食べ物に気をつけたりしている。また必要に応じて牛乳を飲ませたりかかりつけ医に相談して対応を取って貰ったりしている。		便秘の身体に及ぼす影響についてより詳しく情報収集に努め、食に関してもよりよい調理方法についてスタッフ間でも話し合いたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの大切さをスタッフが利用者呼びかけ、食後洗面所にて歯磨き(義歯洗浄)を行なえる様に出来ている。また出来ない部分に関しては職員が手直しをしながら対応できている。		入居者家族を交えて口腔ケアの必要性について講習会などを開きたい。

鹿児島県 グループホームうすき

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病を持った方や、生野菜が体調上合わない方など一人ひとりの状態や服薬に合わせ色々工夫を行なっている。嚥下状態を把握し必要に応じた形態に変えてみたりしている。水分の少ない方にはゼリーやポタージュ状等工夫を行なっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を作り感染についてのマニュアルを作り予防対策の取り組みを行なっている。インフルエンザやノロウイルスなど流行する兆しがあれば、事前にスタッフ間で協議している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品を取り扱う前に必ず石鹸での手洗いを行ない、調理等を行なっている。またまな板等の消毒も定期的に行なわれている。冷蔵庫の掃除も定期的に行ない食材の管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花等を置いているがなかなか出入りに関してはない。どうしても入り込んだ場所にある為か、近隣の人々が積極的に訪れないことが現状である。		もっと地域の方々が気兼ね無く入ってこれるようにしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じれるように、花を飾ったり畑に野菜を植えたりしている。		季節にあった食事を楽しめるようにしていきたい。(例えばひな祭りにちらし寿司とか夏の暑い時期にそうめん等を食事内容に入れ込んだりとか)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々人の部屋のみではなく、ゆっくりとできる空間を設け、他の利用者とトラブルが発生しないように気をつけている。		喫煙場所は設定してあるが、どうしてもにおいの問題がある。換気・においの問題などをもっと検討したい。

鹿児島県 グループホームうすき

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が希望しているものを持ち込んで貰っている。あまり多くのものは持ち込めないとしても、空間は大切に貰っている。個々の希望を勘案しているが、その部屋に閉じこもって自分の世界に入ってしまう可能性があるので度々声かけを行なっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	小まめに換気を行ないクーラーや暖房を付けっぱなしにしないように声かけを行なっている。		各部屋に温度計(湿度計)を設置し小まめに確認・対応して行きたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室に手摺りを設けている。また動線部分に物を置かないように心掛けている。		居室内にも手摺りが欲しい。掴まえる所が限定されている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者本人が出来ないことに関してのみ手助けを行ない、自分で出来ていることは状態を見ながら一緒に行なうような支援をしている。		一人ひとりへの声かけに配慮し同じ失敗が生じても本人が拒否しないような声かけをして行きたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りにテーブル等を設置し暖かい日などに外気浴しながらお茶を飲んだり工夫を行なっている。		季節に応じてお茶会や運動会などの行事をもっと計画実施して行きたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 グループホームうすき

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の求めることをできる限り実行できる様に、いつも傾聴を忘れず対応している。地域的に工業地帯にあり、どうしても普段地域の方々と接する機会が少ないがグループホームとして外部へ出向く方法を今後とって行きたい。地域の一員として頑張りたい。